



新たなる出発

取締役社長 川口 将一

弊社は本年2月17日、おかげさまで創立満50周年を迎え、次の「かなえる夢」をめざしてNEXT50のスタートをきりました。これもひとえに日々ご愛顧いただいております中部電力(株)殿をはじめ、多くのお取引先の皆様のご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。

昭和60年、私共の研究者や技術者が課題に取り組みましたその成果を何らかの方法で発表したいとの気運が高まり、「愛知電機技報」が誕生する運びとなりました。企業の形や性格が千差万別でありますように、世にある技報やレビュー誌もまた様々であります。こうした中で、弊社の技報が変圧器やモータ、エレクトロニクスやシステム製品の関連分野で、地味ながら着実に歴史を重ね、今回第13号をむかえることになりましたのは、誠に喜ばしい限りであります。関係各位の皆様のおたたくご支援とご指導にあらためて感謝を申し上げます。

本年は50周年の節目という意味からも、将来を見据えたビジョン作りのため色々と過去を顧みる機会がありました。昭和17年、社員8名で「愛知電機再生工場」を起し、変圧器の修理を始めて間もない頃であったと思います。変圧器を作る上で、巻線は大切な工程の一つですが、当時は左手で電線を持ち右手でハンドルを回すという不安定な作業をしていました。自分でもやってみましたが、非効率で大変な作業だと感じましたので、動力化を思い立ち、自動車の解体屋でミッションとクラッチを買い求めて、ハンドルの代わりにモータで動かすことを考えました。巻き始めは低速から出て、スピードが上がった時にミッションで切り替えるという原理です。機械は完成しましたが、センター出しの時間がいりますので、手先の器用な作業者は面倒である上に作業性が悪い、とって使いたがりません。やむなくハンドル式と動力式で巻線作業を連続して競争させ、ようやくその良さを認めさせることが出来ました。いったん使ってみればこんな便利なものはないと、今度は誰も手離さなくなりました。振りかえってみますと、この出来事こそが、弊社における技術開発の出発点であり作業改善の第一歩であったような気がいたします。同時に、いかに人の習性を変えることがむつかしいかを肌身で実感いたしました。

昭和20年後半になりますと、方向性けい素銅板が開発され、巻鉄心変圧器の製造をめぐる国内各社が競い合いました。幸いにも、弊社のノーカット方式が電力各社に採用されました。会社の総力をあげて必死に取り組んだこの変圧器の開発は、素材の特性を含めて基礎技術の研究を徹底した点でエポック・メイキングとなり、次の飛躍に役立つことになりました。昭和30年には、初めてアメリカに渡り、工場での大量生産活動や家庭での電化の様子に接して衝撃を受け、これがきっかけとなって小型モータに本格的に取り組むことになりました。アメリカからハーメティックモータの技術を導入し、合弁会社で製造して28年余、今では技術上の立場もすっかり逆転しました。昭和62年には、タイのメーカーに変圧器の技術を提供する側になりました。

こうした道のりをたどりながら、創業以来、小粒ではありますが絶えず息の長い技術開発を心掛けてまいりました。本年を技術開発の面でも新たな出発の年とし、技術の原点に立ちかえり、基礎技術の確立や基礎研究の推進などに、着実な歩みを続けていきたいと考えております。

日本は自他ともに認める技術大国に成長し、その責任も義務も今までとは比べものにならない程、大きくなっております。限られた分野ではありますが、その一端をになう私共としては、品質こそが国内外のお客様にお応えする道と心得ております。さらに安全で使いやすく、生活・自然環境や地球資源にまで配慮した堅実な技術・製品の開発を基本姿勢として、また使命として追いもとめて行きたいと考えております。

人間尊重の考えをベースにして、今後一層努力を重ねて技術を高め、デジタル情報処理技術、パワーエレクトロニクス技術、メカトロニクス技術、太陽光発電関連等々、輝かしい21世紀に向けての新しい技術に対しても積極的にチャレンジしてまいりたいと念願しておりますので変わらぬご愛顧、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。